

産業用地開発へ起工

明大菅田農場跡地 官民連携で整備、誘致

市とエペロップ「エム・ケー」(東京都日野市)による官民連携の産業用地整備事業「明治大菅田農場跡地開発計画」(ネクストコア千葉菅田)の起工式が28日、同農場跡地(緑区菅田町2)で開かれ、来年12月の造成工事完了を目指して熊谷俊人市長ら関係者が工事の安全を祈願した。

開発地は、千葉外房有料

道路・高田インターチェン

シ(IC)やJR外房線菅

田駅に近く、市立菅田中学

校と住宅街に隣接する約26

・1畝(うち分譲面積約17

・9畝)。

開発は、用地周辺のイン

フラ整備に最大10億円を交

付する市の「産業用地整備

支援事業」を活用し同社が

行う。総事業費は約51億2

900万円で、道路や下水道などのインフラ整備費を市が10億円負担する。

同社や市によると、「高



開発を手掛けるエム・ケーの小林代表取締役(右)と明治大学の菅田農場跡地の大田原健司常勤理事(左)＝28日、緑区の明大菅田農場跡地

速道路のICやJR在来線駅から距離が短く、雇用の確保も容易」(市企業立地課)という強みをPRし、雇用を生みやすい食品産業を中心に誘致する狙い。すでに食品産業をはじめ、10社以上の製造業者から「立地を検討したい」という問い合わせがあるという。

起工式で、熊谷市長は「企

業立地により雇用を創出することで、市民の福祉向上につながる」と期待している」とあいさつ。同社の小林代表取締役は「千葉市と協議し、優良企業を誘致していきたい」と話した。当面は周辺道路の拡張や草木の伐採で跡地を整備。整備と並行し、同社は3月に企業立地の1次申し込みを始める見込み。